

* 卯酉儀と呼ばれた 30cm 反射望遠鏡鏡筒部を PMC に搬入

昔、むかし、東京天文台には卯酉儀という望遠鏡がありました。卯酉儀というまでもなく、子午儀に対するもので、子午儀を 90 度回転させて設置すれば卯酉儀になり、卯酉線上を通過する天体の時刻を観測するための望遠鏡です。しかしその目的のための卯酉儀なる望遠鏡の存在を知る人、見たことのある人に出会ったこともなければ、話を聞いたこともありません。三鷹の東京天文台時代に卯酉儀と呼ばれた望遠鏡は、現在のすばる解析研究棟玄関前の道路の真ん中に立っていたドームの中にあった日本光学製の口径 30cm 焦点距離 500cm の反射望遠鏡でした。写真 1 がそのドームで既に丸いドームでした。卯酉儀ならば建物の屋根は回転する必要はなく、屋根は南北に開閉できればいいのです。したがって建物も丸い必要無いのですが、卯酉儀ドームと呼ばれた建物は丸く、屋根は明らかに後で改造されたと思われるモーターで回転するドームでした。



写真 1 卯酉儀ドーム

中にあった望遠鏡は卯酉儀と呼ばれていましたが、実際には全く違った望遠鏡でした。今でも卯酉儀ドームというのが先端技術センター屋上にあり、そのドームの中には昭和器械の赤道儀だけが置かれています。この赤道儀は赤道儀光学ベンチとして購入・設置されたものです。このドームの中にあった 30cm 反射望遠鏡は、元東京天文台長であった大沢清輝先生が日本で初めて光電測光観測を始めた望遠鏡で、その後、中桐が占有して 7~8 年に

わたって変光星の光電 3 色測光観測に使っていたものです。写真 2 が、中桐が光電測光観測に使っていた頃の姿です。



三鷹キャンパス
の卯酉儀と呼ば
れていた
30cm望遠鏡

光電子増倍管：
1P21

卯酉儀というのは、
子午儀に対するもの

この望遠鏡は、今はなく、
開発実験棟屋上に、光学定磐
として赤道儀だけに化けている

写真 2

この 30cm 望遠鏡は、日本全国に掩蔽観測のために持ち運ばれるため、3 台同じ望遠鏡が作られました。その 1 台は、佐藤英さんがフォトンカウントによる光電測光観測をしていた、現在の理学部天文学教育研究センターにあるドームの中の望遠鏡であり、またその 1 台は、26 インチ望遠鏡ドーム 1 階の暗室跡の倉庫に眠っていた鏡筒、ミラーセルがその一部分で、主鏡、副鏡の存在も確かではありません。

この 3 台の内の中桐が使っていた 1 台が現在の先端技術センター屋上の卯酉儀ドームに眠っていたので、PMC に搬入しましたが、鏡筒部しかありません。今は名古屋大学教授である佐藤修二氏と中桐が現在の赤道儀光学ベンチに更新した後、この 30cm 望遠鏡は暫くは現在の MIRA 実験室になっている赤外グループの建物に保管していたのですが、中桐がハワイに滞在中に移動され、赤道儀は行方不明になり、鏡筒部は当時の天文機器開発センターの屋上の卯酉儀ドームに移されていました。この望遠鏡の赤道儀も搜索願を出さねばなりません。

写真 3 が 9 月 26 日、先端技術センターの卯酉儀ドームから PMC に移した 30cm 望遠鏡鏡筒部です。残念なことに、この望遠鏡のカセグレン焦点についていた測光器もありません。この測光器は大沢先生が開発した 3 色測光器で、日本で始めてのものだっただけに残念ではありません。1995 年頃、国立天文台で残すべき貴重な資料、観測器械などの調査があったとき、ハワイから中桐が、この望遠鏡とナルミのマイクロフォトメーターを揚げて保存をお願いした事を覚えています。付け加えると、そのときの調査で残すべき貴重物品のラン

ク付けさえされ、レプソルド子午儀が A ランクの 1 位でした。そして太陽関係では、1) モノクロ、2) サイデロスタット(大)、3) カルシウム K ライン分光器、4) サイデロスタット(小)が揚げられていました。その 4 点については、アーカイブ室新聞で顛末が読み取れます。



写真3 PMCに搬入された30cm望遠鏡鏡筒部